

槻田小だより

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

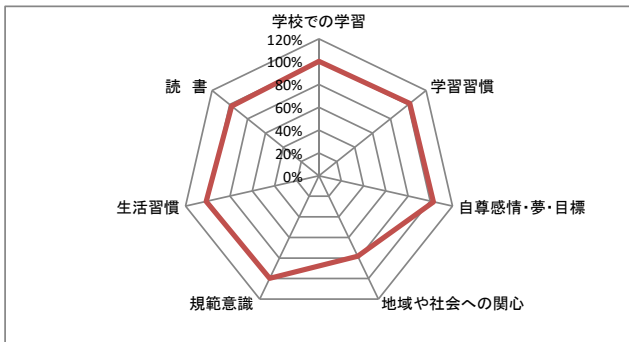
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	全国平均、本市平均ともに上回っていた。14問中10問で正答率が全国平均を上回った。目的に応じて話の内容が明確になるように構成を考える問題や、漢字の読み書きに関する問題の正答率が全国平均を大きく上回った。主語と述語の関係や修飾と被修飾との関係を捉える問題の正答率が全国平均より低かった。また、条件に合わせて記述する問題も低かった。	上回っている
算数	全国平均、本市平均ともに上回っていた。16問中13問で正答率が全国平均を上回った。速さを求める割り算に関する条件付き記述問題や棒グラフから数量を読み取る問題の正答率が高かった。平行四辺形の面積に関する問題や二次元の表に分類整理する問題の正答率が低かった。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・「毎日、同じぐらいの時刻に寝たり、起きたりしている児童が多い。家庭での規則正しい生活習慣が身に付いている。
- ・「自分には、よいところがある」と思っている児童が比較的多い。自尊感情が高まっている。
- ・今住んでいる地域の行事に参加している児童が少ない。また、地域や社会をよくしようとする気持ちをもっている児童も少ない。地域への関わりが少ないと思われる。
- ・1日あたりの読書時間が短い児童が多い。読書をする環境や時間の工夫が必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 問題文を読み取る力に課題があるため、複数の条件を提示した作文に取り組ませたり、「キーワード」を使って「まとめ」や「振り返り」を書かせたりする授業づくりを行う。
- 学習の基礎的な学力の定着を図るために、朝の会の時間で、タブレットや学習プリント、学習カード等を活用して、計算タイムを実施する。
- より「わかった」「できた」を実感することができるように、ICT機器の有効な活用方法を研究していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 読書週間などを設けることで、追体験を通して情操を育成し、自分の周囲に対するアンテナを高くできるようにする。
- 自尊感情をさらに高めるために、よいところを見付けて「ほめる」、委員会活動や係活動などで活躍できる機会をつくることに積極的に取り組む。
- 今住んでいる地域に関心をもつことができるように、校外学習などを積極的に取り入れる。また、槻田川清掃など地域との連携を図り、地域の自然と関わりをもつ機会を設ける。